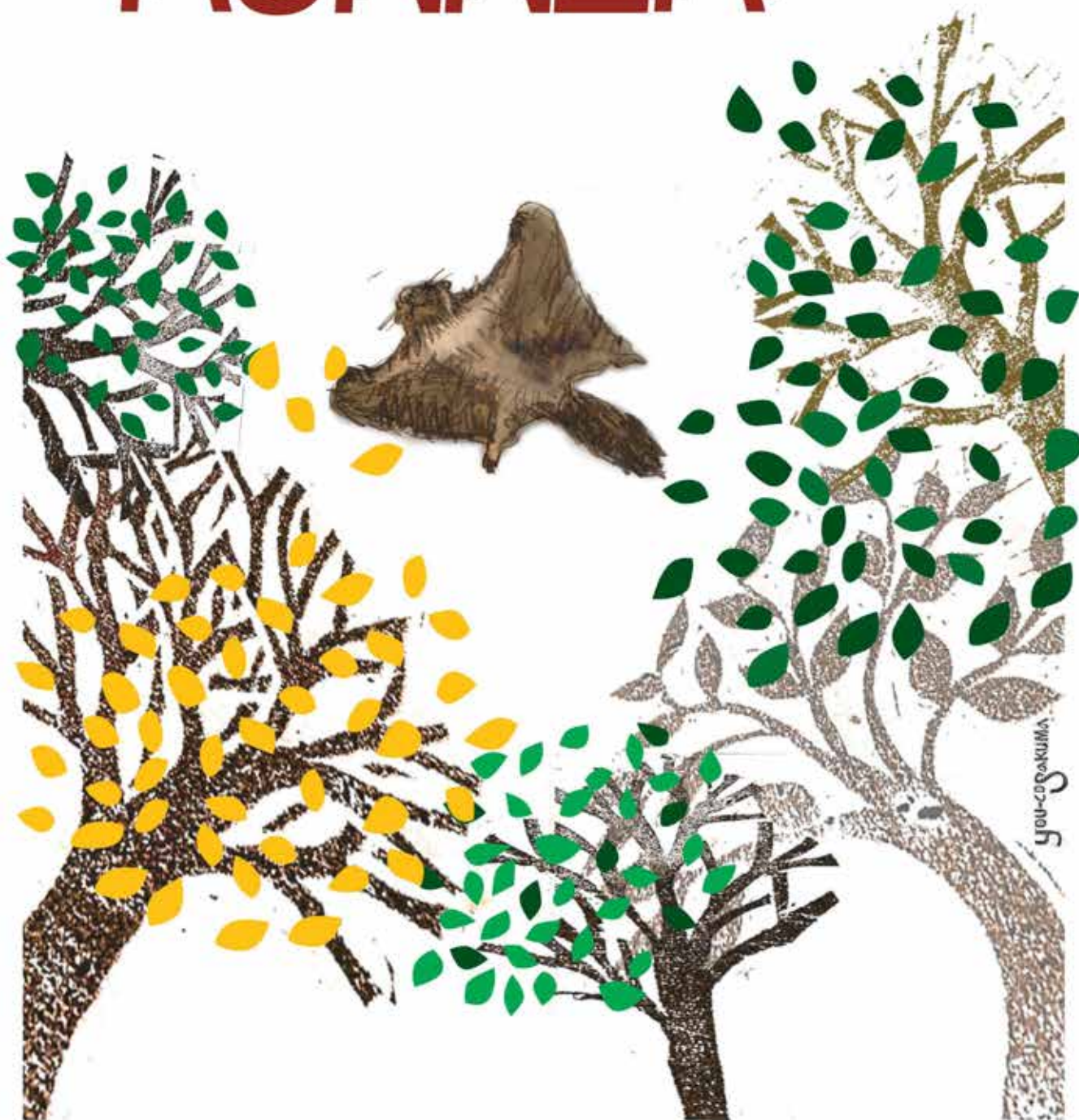




RUNNER

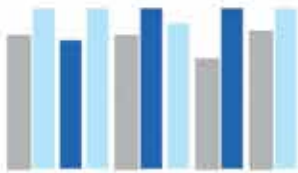
Vol.20



◆目次◆

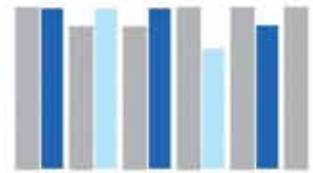
活動の現場.....2
ムササビの観察記録
樹洞性哺乳類の追跡調査.....5
足環Project始動!!.....6
チョウゲンボウ
～訓練から放野まで～.....8

ランナー通りの住人たち
～ハト編～.....10
ロシアで行われている
野生動物の家畜化の研究...11
インフォメーション.....12



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



春休み子ども体験教室 報告

3月29日に春休み子ども体験教室（わくわく野鳥探検隊）を実施しました。児童6名とその保護者の参加がありました。午前中はセンターの自然観察園の谷戸を中心に野鳥の観察会を行いました。午後は傷病鳥獣の観察や野鳥の話、巣箱作りを行いました。子どもたちは、何でも興味を持ち積極的に取り組んでいました。そのためか解散の予定時間が少し遅くなってしまい、最後のアンケートはできませんでした。

★野鳥の観察

シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、カワセミ、コゲラなどの野鳥だけでなくシカの足跡、カエルの卵、巣穴などにも興味を示していました。双眼鏡でのぞいてみるだけでなくカメラで写真を撮っている子もいました。

★傷病鳥獣の観察

鶴飼先生の案内で説明を聞きながらフライングケージを回りました。けがの原因や程度、野生復帰の可能性、私たちにできる注意点などの話がありました。最後に駐車場でハクセキレイの放野を行いました。代表の子が鳥かごのふたを開けると、ハクセキレイはあっという間に元気に飛び去り写真を撮ることもできませんでした。

★野鳥の話

まず午前中に観察できた野鳥のまとめを観察ノートに書き込みました。次に3月ごろに身近でみられる鳥の映像を見ながら名前当てをやりました。驚くほど野鳥に詳しい子がいて盛んに手を挙げていました。さらに冬鳥、夏鳥、幼鳥、若鳥、成鳥、ものさし鳥などの鳥の見方についての説明もありました。

★巣箱作り

シジュウカラ用の巣箱を用意された材料を組み立てて作りました。慣れないぎ打ち作業なので曲がったりはみ出したりしていましたが、大人の手助けを受けながら完成させました。その後取り付け方などの説明を受けてからお土産に持ち帰りました。



石砂山ハイキング 報告

4月20日、曇天の空模様でしたが降水の確率は少ないとの情報を頼りに、参加者7名が車2台に分乗し出発しました。午前10時頃、牧野の駐車場に車を止めて歩き始めました。山頂まで約1時間の道のりです。春の山野草の花を観察したり、さえずる野鳥の声を楽しんだりしながら進みました。タヌキのため糞を植林地の中で見つけたりもしました。

ギフチョウの食草のカンアオイの葉の裏に卵がありました。直径1ミリぐらいの薄い緑色の球形の卵が十数個並んでいます。山頂で見られるギフチョウの姿を期待しながら進みました。頂上直下の急な上り坂をあえぎながら登山頂に到着です。何も飛んでいません。早朝に降った雨の後の曇り空のためか。ギフチョウはいませんでした。休憩しながら30分以上待ったのですが現れません。

下山をし、ふもとの家でわらびやゆずの乾燥物、梅干し、のびる、自家製のパンなどを購入しながら帰路につきました。宮ヶ瀬湖畔のふれあいの館で遅い昼食を食べながら「来年もう1度来たいね。ギフチョウがたくさん見られる4月の早い時期に来たらいいね。」などと話し合いました。

★見聞きできた主な野鳥

キセキレイ、アオゲラ、センダイムシクイ、オオルリ、サンショウクイ、ヤブサメ、アオバト、イカル、シメなど23種

★観察できた山野草

ハナイカダ、ヤマツツジ、ミツバツツジ、ツクバネウツギ、オニシバリ、ヒトリシズカ、ミミガタテンナンショウ、シュンラン、センボンヤリ、ナガバノスミレサイシンなど多数



ギフチョウの卵を見つけました！

MARK is みなとみらいイベント 報告



5月6日、横浜のMARK is みなとみらいにて「傷つく野鳥たち」をテーマにしたイベントが開催されました。イベントへの参加者は親子連れの方が中心でしたが、ご年配のご夫婦も参加して下さるなどで屋上の庭園で野鳥の食べ物カードを探すゲームや、バードストライク防止のためのステッカー作りなどを体験してもらいました。当日は生憎の曇り空で、気温が低かったため人出がどうなるか心配しましたが、午前・午後の回それぞれに15人ほど参加していただくことができました。皆さんとても盛り上がり、楽しみながら野鳥について学べたようです。また5月3日~6日で、傷つ

いた野生動物たちのパネル展示も同時に行われ、現場スタッフの方のお話では足を止めて写真を眺める人をよく見かけたとのこと、こちらも野生動物の現状を伝えることに一役買ってくれました。このイベントをきっかけにして、身近な生き物たちにもっと関心を持ってもらえたらと思います。



野生動物救護の会総会 報告

初夏を思わせる陽気のもと、5月17日にNPO法人野生動物救護の会の定期総会が開催されました。場所は神奈川県自然環境保全センターのレクチャールーム。三輪議長の司会で午前10時30分に開会。参加者と委任状参加者で会員数の過半数より多くなり総会は成立。

議事に入り会計の決算案、2013年度の活動報告案、2014年度の活動予定案が提案されて審議。特に質問や意見もなく承認されました。その後、司会より本年度は役員改選がなく、これまでの理事が任に就くことや新しい活動を提案してほしいことなどの話がありました。その他の議事提案もなく総会は11時前に無事終了。

総会を終え、私たちの野生動物救護の会は会員が結束をますます深め、活動の充実を進める必要があると思いました。



相川小学校放課後教室 報告

5月23日、今年も相川小学校の放課後教室に招かれて子供達と野生動物の事について学ぶ時間をもちました。

今回のプログラムは野生動物の足跡について学び、6種類の野生動物と足跡を線で結ぶクイズと足跡スタンプのしおり作成、そして、日本にはどんな種類の野生動物が息しているかをパワーポイントを見ながら、お話を聞いてもらいました。野鳥の誤認保護についても僅かの時間でしたが、お話が出来ました。

最後に恒例の「手のひらを太陽に」の動物バージョンの替え歌を皆で大きな声で歌い、終わりました。小学1年生から3年生までの参加された21名の生徒さんたちは、40分ほどの短い時間でしたが、どのプログラムも元気に答えて楽しそうでした。帰りは作成のしおりを持って帰りました。



東京農業大学ボランティア論 報告

4月15日、東京農業大学の100名以上の学生さんを対象に「ボランティア論」の授業として野生動物救護の会が「野生動物とボランティア」という題目で講義をしてきました。参加したのは、救護の会おばさんトリオの3人。最初に神奈川県野生動物の救護状況、次に神奈川県自然環境保全センターの野生動物救護ボランティア制度とボランティア活動の実際。野生動物救護の会誕生のいきさつ。野生動物救護の会の活動内容。そして実際に6年に渡り調査している図書館衝突調査の話や猛禽類の放野までの訓練の様子などたくさんのパワポや動画を使ってわかりやすく講義しました。

最後に、チョウゲンボウのけいすけとコミミズクのロンくん登場！（羽の骨折や切断等で放野不可能個体、エデュケーションバード） いろいろな質問も多かったけど生きた猛禽類たちへの質問と撮影会さながらの携帯での写メも大人気！少しでも野生動物たちへの理解と傷つく原因を考えるきっかけのひとつになってくれれば大きな意味になると思います。



平成26年度 野生動物救護ボランティア講習会 報告

今年も6/21・22に野生動物救護ボランティア講習会を神奈川県自然環境保全センター・神奈川県獣医師会・野生動物救護の会、3者主催で開催しました。今年は21日と22日、同じ内容で行い、受講者にどちらか都合のいい日を選んでもらう形で行いました。定員を超える申し込みの中、当選された受講者の方は熱心に各講義に耳を傾けていました。内容としては、野生動物を扱うにあたり絶対に必要な講義で、野生動物救護の理念と目的・衛生管理・法規・救護の現状・応急処置と搬送及び幼鳥の食性と給餌など。午後は、先輩ボランティアさんの話や実習など、内容の濃い一日になった事だと思います。アンケートの回答を見てもほぼ理解できたに○が付けられ、講習会を主催する側としてはうれしかぎりです。

保全センター職員・救護の会スタッフと来年度に向けてよりよい講習会が開催できればと思います。講習会を受講された皆様も、これから実習を重ね野生動物救護ボランティア登録をされるとと思いますが、野生動物や環境保全に共に取り組んで行きましょう～!!



第4回野生動物を学ぶ 夏休み体験教室 報告

8月2日神奈川県自然環境保全センターにて、「第4回野生動物を学ぶ 夏休み体験教室」が開かれました。今回は、小学4年生から6年生の皆さんが参加してくれました。まずはそれぞれ自己紹介をし、グループごとに分かれて「ふれあい体験」。一つ目は、さまざまな動物がいる傷病舎に入り、掃き掃除や水かえを行います。動物がかなり近くにいるので、緊張した参加者もいたのではないのでしょうか。二つ目はテーブルに並べられた動物たちの餌の前で、センター職員の森重さんよりそれぞれの動物がどういったものを食べるのか説明を受け、その後実際に動物たちへ餌を配りました。三つ目は獣医師の鶴飼さんより説明を受け、ボランティアスタッフと共にさし餌を行いました。皆さん緊張しながらも一生懸命行っていました。その後、アオサギやチョウゲンボウを間近に見ながら羽根や嘴の説明をボランティアスタッフから受けました。午前中の最後はヒヨドリ、ムクドリ、アオサギの放野体験。4つのケージが運び出され、それぞれ放野体験をしてもらいました。ケージを開けてもなかなか飛んでいかない個体もいましたが、最後は4羽とも無事に飛び立っていきました。

お昼を食べた後、午後は野生動物のケガの原因と対策を考え救護の現状を知るためのゲームを行いました。それぞれスズメ、ツミ、コサギ、タヌキのお面をつけてなりきり、その動物の食べ物探しに出ます。その動物はどんなものを食べるのかグループで考えます。探している最中は、車が走っていたり、ネコがお散歩していたり、窓ガラスの向こうに餌があったりといろいろな状況に遭遇します。人間には問題ないことでも野生動物にとっては危険な状況が発生することを体験しました。これらを防ぐために私たちができることを皆で話し合い考えました。その後獣医師の久末さんより、センターで保護される野生動物の現状の説明を受けました。ゲームを体験したことで、説明がより理解できたのではないかと思います。次に、野生動物を守る方法を食べ物との関係から考えてみました。まずは日本にいる野生動物をあげてもらい、その動物の食べ物をそれぞれ思いっただけホワイトボードに書いてもらいました。そして人間と動物とで食に関しての違いをグループで話し合い、最終的に野生動物を守るにはどうしたらよいかをまとめ、発表してもらいました。

最後はうちわ作りです。足跡のスタンプを押したり、絵を描いたり、デコレーションをしたりとそれぞれの個性あふれるうちわが完成しました。



ムササビ観察記録

樹洞性哺乳類の追跡調査



(写真提供：神奈川県自然環境保全センター)

2011年10月9日 東京農業大学の安藤元一先生に「樹洞性哺乳類の調査&講習会」という内容で講演をお願いしました(ランナー12参考)。同じ年、12月18日に安藤先生のご協力のもとに、安藤先生、農大の学生さん、野生動物救護ボランティア、という混合チームでムササビの巣箱を4つ作製し、神奈川県自然環境保全センターの野外施設(谷戸)に、巣箱を設置し各巣箱にはセンサーカメラも取り付けました。目的は「ムササビの確認から追跡調査、繁殖生態などを学び、救護活動に役立てる」

- ・その後、安藤先生率いる農大チームが定期的にチェックをしていてくれましたが、ムササビが生息している様子がなかったために、2012年秋に調査は終了としセンサーカメラは、取り外した。
- ・2014年1月7日に巣箱の撤去も考え様子を見に行った所、巣箱(NO.3)から、ムササビが飛び出すした。(巣箱を外そうと手をかけた所に、目の前にふさふさした物が・・・あまりにも驚いて、思わず谷戸に響き渡る悲鳴～でもムササビの方がもっと驚いたかも)
- ・1月27日、センサーカメラを取り付けるが、取り付け作業の時にも、ムササビ飛び出した。
- ・2週間に一度程度、センサーカメラのデータ交換に行った。
データを確認すると、夜間に巣箱の側にいる動画が17回撮影されていた。巣箱への出入りは、

センサーカメラの設定不備で撮影できなかった。ちなみに、3月17日には巣箱の上にいるフクロウも撮影された。

- ・6月1日、谷戸にてムササビの死体(死因不明)をセンター職員が発見した。
- ・6月30日、ムササビが死亡したため、センサーカメラを取り外した。
その後、データを確認すると6月22日にムササビが撮影されていた。
谷戸には、複数のムササビが生息している事が推測された。

今後もムササビの繁殖まで追跡調査を行いたいと考えていますので、興味のある方は、ぜひ参加して下さい。ムササビの動画等は、どこかでお見せできればと考えてます。



足環Project 始動!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知ることができます。詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧下さい。

2014年3月～足環を付けて放された鳥たち

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所
C 2	オオコノハズク	3月	伊勢原市
C 3	オオコノハズク	4月	湯河原町
C 6	ツミ	5月	横浜市
C 7	ゴイサギ	5月	秦野市
C 8	チョウゲンボウ	8月	秦野市
C 9	フクロウ	8月	湯河原町
D1	セグロカモメ	8月	藤沢市
D 2	アオバズク	8月	秦野市



D2 アオバズク



C6 ツミ

◎使用している足環



*読み方は上から「A0」と読みます。

足環プロジェクトの放鳥個体、再保護！

放野した個体が再保護されました。

B7トビが8月に藤沢市にて再保護され、現在金沢動物園にて治療を受けています。
C7のゴイサギが数日後、秦野市内で再保護され、現在保全センターでリハビリ中です。
再保護という形ではありますが、トビは約8ヶ月は野生で生存できていたことが確認できました。



☆左足に赤い足環をつけた野鳥を見かけたら、下記まで連絡して下さい。

NPO 法人 野生動物救護の会

TEL 0463-75-1830

e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課

TEL 046-248-6682 (連絡先が変わりました)

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>

チョウゲンボウ～訓練から放野まで

M (猛禽) プロジェクト

チョウゲンのちょっち（短いお付き合いのチョウゲンの名前は全部、ちょっち）が、やって来たのは、6/13 の事。秦野市役所からの相談電話が始まりでした。「秦野駅前の橋の下に猛禽のヒナがいる」との市民からのSOS。警察、市役所も巣立ちヒナと思われるので、そのままにしておく様に指導しましたが、納得されず、市役所が様子を見に現場へ。そして保護されたのが、まだ小さなヒナ（156g）でした。巣の場所は分からず、親の姿も見あたらず、一体何があったんだろうか！？ その日は我家で預かり、翌日に神奈川県自然環境保全センターへ。受付後（受付番号 140208）放野の訓練のために預かる事に。数えれば訓練のためにお預かりチョウゲンは 23 羽目。6 月末には大人の姿になったものの、なんだか目に力がなく、本当に野生に帰せるのか・・・（弱肉強食の野生の世界で落ちこぼれた子？）。そんな気持ちで始めた訓練は、いつもより力が入らず少し適当な感じでした。

放野に向けて

訓練中のちょっち



訓練風景

= 訓練記録 一部紹介 =

- ◆ 7/1 210.1 g 足皮をつける
- ◆ 7/4 195.5 g 庭で 40 c m 飛ぶ
- ◆ 7/6 206.9 g 道路で 40 c m × 5 往復
- ◆ 7/9 185.3 g 2m × 10 往復 反応よし
- ◆ 7/10 191.2 g 5m × 10 往復 風に煽られ暴走
- ◆ 7/12 186.4 g 7m × 13 往復 大暴走
- ◆ 7/14 184.9 g 11m × 13 往復 OK、1 度大暴走
- ◆ 7/15 180.9 g 20m × 13 往復 もどる時大暴走
- ◆ 7/17 181.3 g 22m × 16 往復 暴走 × 2 回
- ◆ 7/18 188.4 g 25m × 15 往復 大暴走あり
- ◆ 7/21 182.9 g 30m × 15 往復 暴走多し
- ◆ 7/22 176.2 g 35m × 18 往復 暴走あり、暑くて息があがる
- ◆ 7/23 180.2 g 20m × 8 往復 大暴走で中止
- ◆ 7/25 180.8 g 30m × 13 往復 暴走あり
- ◆ 7/26 178.5 g 35m × 15 往復 少し暴走
- ◆ 7/28 176.2 g 40m × 13 往復 暴走するので中止
- ◆ 7/29 174.2 g 42m × 15 往復 最後に大暴走、バカ！
- ◆ 7/30 171.8 g 43m × 12 往復 研修生見学 × 3 回ほど体験してもらう
☆これで訓練は終了なので、マウス・ヒヨコなど食べたいだけ食べさせる。
- ◆ 8/2 225.1 g 朝、家の前から赤い足環 C8 を装着後、放野
☆元気に飛んで行きました



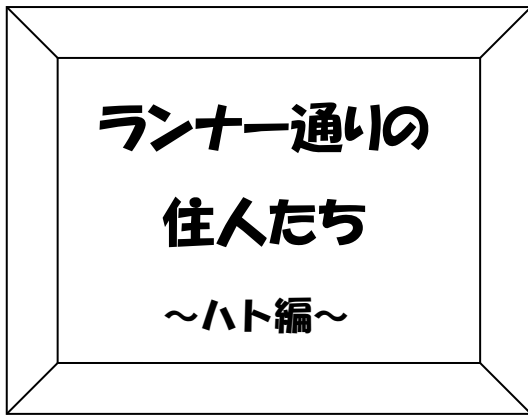
足環装着後

◎当会 HP 「フログはじめました」→訓練と放野の様子が動画で見られます

※暴走・・・好き勝手な方向に飛ぶこと。

ヒモが絡まって一人だと対処するのに大変。訓練している道路の隣の建設資材のお店に何回も飛び込み、回収するのにとても恥ずかしい思いをする。暴走させないためには、もっと体重を減らしてエサに集中させる必要があるが、体重を減らすとリスク（死に至る）も大きくなるので、今回はこのまま続行。

馴れた（馴らした）チョウゲン、野生に帰しても戻って来ると言う方もいるかも知れませんが、まず、帰って来ません。夏の間は、バッタなど初心者用のエサを捕り鍛錬を積み重ね、冬に立ち向かいます。春に元気で飛んでいる C8 ちょっちを見る事ができれば、私の苦労は報われるのですが。



変な嘴のヤツが来た

受付 No. 140338 受付日 2014 年 7 月 22 日

この日、キジバトが厚木市内の民家の庭にいたところを発見されました。センターに持ち込まれた時、骨折等はありませんでしたが、妙なのは嘴。なんと、下嘴にあいた穴に上嘴が入り込んでいるではないですか！これじゃあ口が開けられません…そりゃあ痩せ細っているわけです（受付時体重 173.8g）。

血だらけの毎日

嘴を整復した後、別館の小鳥部屋内の鳥かごの中で1羽ひっそりと回復を待つ…と思いきや！暴れる暴れる！今の状態を回復してほしいから敢えて大きなフライングケージに出していないのに、毎日かごの中で暴れまくり、その度に両翼の翼角（人の手首にあたる部分）を傷つけていました。そのため、かごを段ボールで内張りしたり、嘴だけでなく翼の治療も、強制給餌もこまめに行いました。

ダメもとで外へ！

キジバトがいつも暴れる場所は唯一段ボールで内張りされていない入口付近でした。ということは、人や物音に驚いて暴れるのではなく、ただ単に外に出ただけでは？痩せ型ではあるけどかごの中で体重を維持できているし…と思い、試しに他のハトたちがいる外のフライングケージ (FC2) に移してみました。出た直後は大体大人の目線程度までしか飛ぶことができませんでしたが、落ち着いた様子。数日間体重を測ってみたところ、自分で維持できていたため、現在もフライングケージにてリハビリ続行中です。両ピンク赤ピンクの足輪見つけてね！

キジバトに続けるか？

受付 No. 140363 受付日 2014 年 7 月 30 日

また別の日、アオバトが厚木市内の工場の駐車場にいたところを発見されました。保護場所の周囲には特に建物もないとのことでしたが、体も首も傾き、元気がないことなどから、衝突が疑われました。

このアオバトも保護時は削瘦していて、さらには沈うつで危ない状態が続いていました。しかし、毎日強制給餌を行い、段々と回復してきました。少し回復してきたくらい頃は自分でエサをねだってくれたので給餌もしやすかったのですが、回復していくにつれて強制給餌を嫌がるように。この子もキジバトと同じように外のケージに出してみようかとも思いましたが、斜頸の具合からもう少しかごの中で様子を見ることとなりました。今はもう自分でエサを食べられるまで回復したので、外に出る日も近そうです。

個体差に気付いて！

今回ご紹介した2羽のように、保護されてから回復するまでの過程やそれに要する時間は種だけでなく、個体により様々です。たとえ同じ巣にいた兄弟であっても、です。是非センターに来た時には個々の動物たちの状態をじっくりと観察してみてください。そして、もし何か気付いた場合は、職員さんや他のボランティアに伝えてみてください。あなたのその小さな発見が、一つの命を救うきっかけとなるかもしれません。



キジバト



アオバト

ロシアで行われている野生動物の家畜化の研究

イヌ・ネコ・ウシ・ブタ・ニワトリなど、家畜化され人間に飼育されている動物はもともとすべて野生動物でした。ロシアの研究所ではそれらの動物が家畜化される過程を解明する研究が行われています。個人的に非常に興味深い内容だったので今回紹介したいと思います。

はじめに

ロシアのシベリア南部にあるノボシビルスクという都市の農場で、生物学者のリュドミラ・トルート氏の研究チームによって、野生動物であるギンギツネの交配実験を通じ遺伝子の働きを解き明かす研究が行われています。この研究は半世紀以上前にドミートリ・ペリヤーエフ氏が率いる研究チームが、1万5000年以上前に起きたオオカミからイヌへの変化を再現しようという試みから始まりました。そして、数千年かかったであろう家畜化のプロセスをわずか数年で再現することに成功しています。現在、当時大学院生として研究に参加していたトルート氏が研究を引き継ぎ、ギンギツネをはじめ他の家畜化された動物も含めて、野生動物とは異なる性質の発現に関わる遺伝子の解明に取り組んでいます。

研究の概要

研究開始の契機は、ペリヤーエフ氏が、同じオオカミを祖先とするはずなのに、なぜイヌは多様化したのか？という疑問を持っていたことでした。その答えは分子レベルで解き明かすしかなないと考えたのですが、当時は動物の遺伝子を解析する事は技術的に不可能でした。そこでペリヤーエフ氏は同じイヌ科の動物で家畜化されたことの無いギンギツネに目をつけ、オオカミからイヌへの変化の歴史を、ギンギツネをモデルとして再現することにしました。

1958年、ペリヤーエフ氏の下、トルート氏は毛皮用に飼育されていたギンギツネのなかからオス30頭、メス100頭の大人しい個体を集めてきます。そしてこれらを交配させ、生まれた個体の中から、①ケージの前に人間が立っても飛びかからない、②扉を開けて手を入れると興味を持ち近づいてくる、③キツネの体に触れても噛み付かない、という基準で人に対する警戒心が低い個体を選び、選ばれた個体同士を交配し、世代を重ねていきました。すると、1964年に4世代目が誕生すると、人間に尾を振って近づく個体が現れました。この様な特に警戒心の低い個体をエリートと名づけ交配を続けていくと、エリート率は6世代目1.8%、10世代目18%、20世代目35%、30世代目49%、50世代目85%と代を経るごとに高くなっていきました。また、エリート率の上昇と共に、巻き尾や短い尾・垂れ耳・鼻が短く頭部が横に広い、

などの主に幼獣の時に見られる形態的特徴を残したままの成獣が増えていきました。また、9世代目からはエリートの中に体の一部に白斑を持つ個体が現れ、その後エリート達の多くがこの特徴を持つようになりました。

この様な数十世代という短期間に起きる形質の変化は遺伝子の突然変異によるものではなく、遺伝子の発現の仕方による変化(エピジェネティックな変化)によるものだと考えられます。つまり、同じ遺伝子を持っていてもその働き方や働くタイミングが変わることで様々な変化が起こるということです。野生動物でも幼獣の時は警戒心が低く、好奇心が強いため人を怖がらない個体が多いです。幼獣の時の特徴を成獣になっても持ち続けるということが家畜化のプロセスであり、これは遺伝子の突然変異ではなく、エピジェネティックな変化によりもたらされるものと考えられるのです。このエピジェネティクスという考え方は遺伝学の常識を変えるものなのです。

考察

今回紹介した研究から、家畜化された動物には野生動物とは異なる遺伝的な特徴があるようです。しかし、変化をもたらす具体的な要因はまだ謎の部分が多いようです。この辺りがはっきりわかるようになるのと人間と動物との関わり方が大きく変わってくるのかもしれないと感じます。

また、短期間で野生のギンギツネを家畜化する事ができたのなら、家畜の野生動物化という逆の事も短期間でできるのではないかとも思いました。もしそれが可能ならば、家畜として飼育されている動物から既に絶滅した野生動物を蘇らせ、失われた生態系を復元するといった事に応用できるかもしれません。もちろん、その様な事にならない方が良いでしょうし、今ある自然環境や生態系を守っていくべきであることは言うまでも無いと思いますが、最悪の場合の備えにもなり得る研究なのではないかと感じました。

今後、この研究がどの様に展開されていくのか非常に興味深いです。

インフォメーション

イベント

◆動物フェスティバル神奈川 2014 in 西湘

▽日時:10月5日(日)10:00~16:00 ▽場所:小田原アリーナ

☆「育もう豊かな心 やさしい気持ち」をテーマに様々な動物関連の催しが行われます。
救護の会もブースやパネル展示で参加します。

◆環境フェスティバル

▽日時:10月26日(日) ▽場所:厚木中央公園

☆環境をテーマに様々な団体が出展します。救護の会もブース出展します。

◆ジャパン・バード・フェスティバル 2014 (JBF)

▽日時:11月1日(土)・2日(日) 9:30~16:00(1日) / 9:30~15:00(2日)

▽場所:千葉県我孫子市手賀沼周辺

☆鳥をテーマにした日本最大級のイベントです。救護の会もブース出展します。

◆秦野市民まつり

▽日時:11月3日(月祝) ▽場所:秦野運動公園

☆救護の会もパネル展示等で出展します。

環境教育

◆清水小学校 日時:10月16日(木) ☆4年生に「森に住む生物たち」をテーマにお話します。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は9月26日、10月31日、11月28日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

“救護の会 ブログ” 始まっています！

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや
報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ
「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ → <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

【お詫び】前号の表紙のナンバーが Vol.18 と表記されていましたが、正しくは Vol.19 でした。
ここに訂正しお詫び申し上げます。

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました
皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円 一口以上

振
込
先

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2014年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙:佐久間祐子(平沼亜矢子) 活動の現場:平沼亜矢子
ムササビ観察記録:安井啓子(平沼亜矢子) 足環 Project 始動!!:渡辺優子(片瀬亜妃)
チョウゲンボウ~訓練から放野まで~:渡辺優子(片瀬亜妃) ランナー通りの住人たち:高橋恵
ロシアで行われている野生動物の家畜化の研究:福富潤 インフォメーション:神崎さつき